

理学研究科

【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

理学研究科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、「数学」または「物質科学」に関わる高度な専門性の発露を通して地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物を育成します。理学研究科の各専攻（数学専攻・物質科学専攻）で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各専攻の学位授与方針に従って修了を認定し、修士（理学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通して、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 大学院での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、能動的に関わるための積極性と知性を有している。
3. 自身の専門に関する深い研究を通して、「数学」または「物質科学」における知識と技能に加え、思考力・判断力をさらに高め、新規の知見を見出し、また新しい価値観の創造に関わることで、極めて高い専門性を獲得するだけでなく、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

理学研究科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門を含む広い範囲の特論科目もしくは特修科目を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、合否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする演習科目、もしくは講究科目を設定する。その学内外での学びにおいて、多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、合否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 「数学」または「物質科学」に関する学びおよび探究を深めるため、研究論文作成を行う。研究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、合否の判定を伴う総括的評価は、各専攻において複数の担当教員が関わる形で、各専攻が示す基準に基づき、研究成果の口頭発表および質疑応答を含む学位論文審査において行う。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）】

理学研究科では、地域や国際社会の発展を積極的にリードできる専門性を持つ人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 自らが専門とする「数学」または「物質科学」の分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、それを発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

(2026年4月入学者用)